兵庫県保険医協会
西宮芦屋支部ニュース
No. 383
2026・10・25

西宮・芦屋支部／環境・公害対策部共催　市民公開講演会

終わらない原発事故　福島の過酷な実態伝える

西宮・芦屋支部と環境・公害対策部は9月5日、市民公開講演会「福島 終わらない原発事故～伝言館が訴えるもの～」を協会会議室とオンラインで開催。会員・市民ら38人（来場28人、オンライン10人）が参加した。

福島県楢葉町の古刹・宝鏡寺にある「伝言館」は、故・早川篤雄住職が、原発事故の賠償金を投じて建設した民間の資料館。安斎育郎立命館大学名誉教授が館長を務め、核災害の悲惨さと教訓を在野の視点から後世に伝えるため、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマの歴史をつなぐ展示や「原発悔恨・伝言の碑」を設けている。

伝言館事務局長の丹治さんが今の福島の実態を報告

冒頭、広川恵一顧問が、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故後被災地訪問活動を続ける中で、「伝言館」を訪問し、早川住職と交流を続けてきたと紹介した。

続いて、伝言館事務局長の丹治杉江氏（ALPS処理汚染水放出差止訴訟事務局長）が講演。福島の現状について、廃炉計画は破綻しており、福島県には「原子力緊急事態宣言」が出されたままで、年間20mSvという通常の20倍の被曝限度が容認され、原発作業員は50倍の50mSvとされたままになっていると告発。

また、本来なら居住も飲食もしてはいけない地域に人が居住し、働いているにも関わらず、「健康被害」の原因はストレスであって放射能ではないという、新「被曝安全神話」が政府のキャンペーンにより作り出され、帰還・移住政策が推進されている現状を紹介。福島の人々はにおいも、痛みもない放射能との折り合いをつけざるをえない暮らしの中「仕方ない」が口癖になり、新たな分断が生まれ、不安と絶望にさいなまれ続けていると思いを語った。

第二次安倍政権以後、福島の復興計画は、航空宇宙産業など、ビジネスと軍事利用の区別があいまいなデュアルユース技術を推進する惨事便乗型復興計画「イノベーション・コースト構想」に変化し、被災者の生活回復や破壊された環境回復は脇に置かれていると批判した。

丹治氏は、事故から15年を「節目」として終わらせず、福島の現状を知ってもらい、政・官・財・学・マスコミ・司法でつくり上げられた「安全神話」で再び原発再稼働が進められている現状を止め、地産地消型再生可能エネルギー社会をめざして、声をあげてほしいと参加者に訴えた。

病診連携勉強会　西宮渡辺心臓脳・血管センター

動脈瘤治療での病診連携を考える

西宮・芦屋支部は10月1日、西宮渡辺心臓脳・血管センターで「病診連携勉強会」を開催。同センターの副院長で心臓血管外科主任部長の松本康先生が、「こぶ（瘤）取り爺さんが大動脈瘤を切らずに治す」と題して講演を行い、参加者が持ち寄った症例を紹介、交流を行った。会員医療機関から医師4人が参加した。

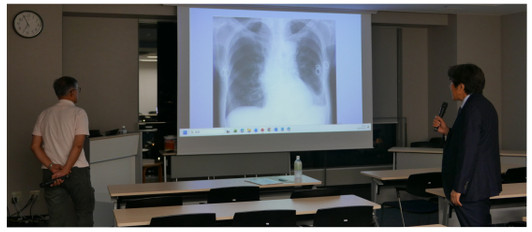
病診連携勉強会は西宮・芦屋における病診連携を強化することを目的として2000年より不定期に開催している勉強会。診療所から紹介された患者に病院でどのような治療を行っているかなど、具体的な症例も含めて交流してきた。今回はその一環として、15年ぶりに西宮渡辺脳・血管センターで開催した。

松本康先生が最新のステント治療などについて講演

松本康先生はステントグラフト手術など、胸部・腹部大動脈瘤の最新の治療を映像も交えて分かりやすく解説。手術の適応となる病態も踏まえながら、適切な患者紹介のタイミングや、安定した病態にある患者のフォローで留意すべきことなどについて話した。

その後、参加者の先生方が持ち寄った、対応に悩んだ症例などについて紹介。松本先生が講評を行い、適切な病診連携の在り方などについて意見交換を行った。

参加した先生からは「『明日から役立つ』勉強会だった」などの感想が寄せられた。



参加者が症例を持ち寄り交流した

世話人会だより

西宮・芦屋支部は9月25日（金）に西宮医療会館で世話人会を開催。4人が参加した。

【Ⅰ．最近の診療経験の交流】
・インフルエンザの予防接種について
【Ⅱ．予定・企画】
①病診連携勉強会（西宮渡辺心臓脳・血管センター）（10・1）
②映画「日本の青空」上映会（11・7）
【Ⅲ．報告】
①環境・公害対策部共催・市民公開講演会（9・5）
②リスクマネジメント研究会（9・19）
【Ⅳ．その他】
①ストップザアスベストの取り組み
②法西浩先生インタビュー
【Ⅴ．協会・保団連行事】
①第41回保団連医療研究フォーラム（10・11～10・12）
②第35回日常診療経験交流会（10・25）

＊世話人会の日程は毎月第4金曜日です。次回は11月27日（金）に予定しております。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

発行
兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部
〒662-0832
西宮市甲風園一-一-五 法貴皮膚科内
兵庫県保険医協会
☎ 078（393）1801

西宮・芦屋支部 ／ 九条の会・兵庫県医師の会 共催

映画「日本の青空」上映会

日　時　2026年11月7日（土）16時～
会　場　協会５階会議室
参加費　無料

「日本の青空」は、戦後の混乱期に在野の憲法学者・鈴木安蔵らが徹底した主権在民と戦争放棄を掲げ、日本国憲法の草案（憲法研究会案）を編み上げたドラマを通じて、日本国憲法誕生を描いた作品です。

防衛費の大幅な増額や殺傷能力のある武器の輸出解禁など、日本は急速な「軍事大国化」へと突き進んでいます。さらに国会では国民投票法の改正や自衛隊の明記、緊急事態条項の新設を巡る議論が加速し、憲法改正の発議に向けた動きがかつてないほど具体化しています。

医療者と市民がともに、日本国憲法の原点に立ち返り、憲法と日本の未来を考える機会になればと思います。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※お問い合わせ、来場お申込みは、☎078-393-1840　伊地知、呉、山田まで

東日本大震災・能登半島地震
第20回 被災地交流/物産・物品展

2026年11月14日（土）　西宮市内２会場同時開催

① 林医院　9時～12時
西宮市甲子園口3丁目9-23
（JR甲子園口駅から南西に徒歩約８分）

② 広川内科クリニック　9時～14時　（13時～13時40分 二胡コンサート開催！）
西宮市神明町4-26
（JR西宮駅より北へ徒歩約７分）

震災被災地との交流のため、岩手県宮古市の「かけあしの会」の物産・物品販売や展示会などを開催いたします。能登半島地震被災者の方の製作したサコッシュや協会の取り組みのパネル展示、ウクライナ被災市民支援作品展も行います。

広川内科クリニックでは二胡の演奏会も同時開催予定です。ぜひご参加ください。

※お問い合わせは ☎078-393-1840　伊地知、呉、山田まで

リスクマネジメント研究会 感想文

ワクチン後遺症治療の取り組み学ぶ

西宮・芦屋支部は９月19日、リスクマネジメント研究会「コロナ感染後またはコロナワクチン接種後に発症した筋痛性脳脊髄炎・慢性疲労症候群に対する治療について」を西宮市内で開催した。医療法人社団それいゆ会こだま病院理事長の児玉慎一郎先生を講師に招き、27人（うちＺｏｏｍ20人）が参加した。半田伸夫先生の感想を紹介する。

児玉先生がコロナ後遺症／ワクチン後遺症患者の治療について話した

９月19日、西宮市商工会館にて上記講演会が開催された。演者はそれいゆ会理事長で宝塚市のこだま診療所所長の児玉慎一郎先生である。先生は外科・救急医であり、２０１７年から医療法人社団それいゆ会こだま病院・児玉診療所理事長として診療をはじめた。その後、２０２０年から始まったコロナパンデミックの最中に積極的にコロナ患者さんの診療に取り組まれていた。

ワクチン後遺症問題を取り上げたサンテレビ報道番組の取材があり、後日も模様が放送された

YouTubeにてアーカイブ公開中（2026年10月時点）
https://youtu.be/jN1TJCpo2tI

パンデミックが収まった後もコロナ感染後急性後遺症（ＰＡＳＣ）や、コロナワクチン接種後症候群（ＰＶＳ）の患者さんが数多く来院されるようになった。それらの患者さんには、筋痛性脳脊髄炎・慢性疲労症候群（ＭＥ／ＣＦＳ）の診断基準に合致する症例が多く含まれ、これらの患者さんの多くは鎮痛剤や多くの薬剤に対しても副作用が起こりやすいことを実感していた。そのため、副作用が出にくい治療を模索していた中で、血中の貯蔵型ビタミンＤとされる25（ＯＨ）ビタミンＤが基準値以下の症例が多くいることに着目し、これらの例にビタミンＤを投与したところ、症状が改善した例を経験した。

この活動の中で、同様にコロナワクチン接種後症候群を積極的に診療している実地医家の医師や、薬剤疫学専門家の福島雅典名誉教授とともにワクチン問題研究会を設立し、業務執行理事をされている。その研究会の有志医師たちと活性型ビタミンＤ投与群、活性型ビタミンＤ＋ビタミンＤ＋日光浴などの一般療法の二重盲検試験を行ったところ、活性型ビタミンＤ単独投与群に比べ、ビタミンＤ併用群で有意な症状改善が認められた（Nutrients　２０２６）。

この試験では活性型ビタミンＤ投与と併用しているが、実臨床では併用は不要との説明だった。この治療では疼痛や睡眠障害は比較的改善しやすいが、病的疲労を中心とした中核症状が残ることが多い。そのため、さらなる治療法の改善に取り組んでいるとのことだった。

このことは、現在確実な治療法がないＭＥ／ＣＦＳに対して極めて画期的なことである。この講演で児玉医師は、現在日本のＰＶＳの大半はコロナワクチンの後遺症であり、国民の90％以上にワクチン接種を促した国はその事実の調査を行い、その原因究明と治療法の開発をするべきである、と主張した。そのためには、ワクチン推進派やワクチン反対派という問題とは切り離して考えるべきであると強調した。児玉先生の患者さんに寄り添った姿勢に感動した研究会であった。

【西宮市・半田医院　半田　伸夫】